

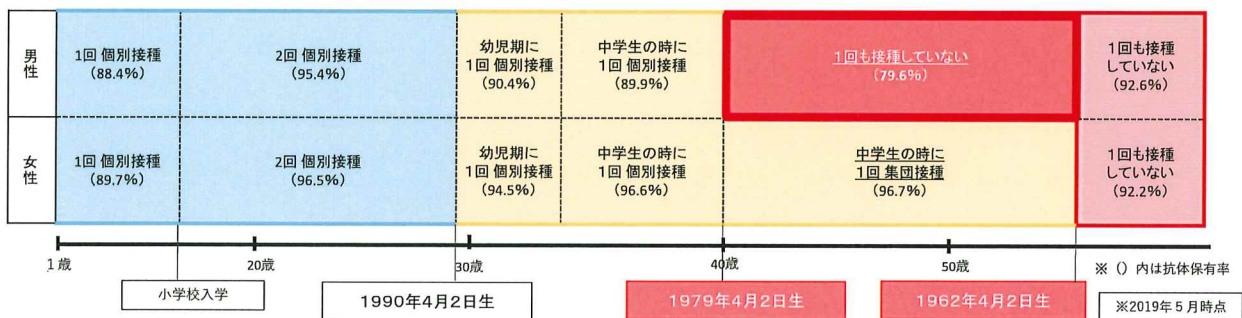


## 風しんに関する追加的対策

### 追加的対策のポイント

特に抗体保有率が低い昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれ（令和元年度40歳から57歳）の男性に対し、

- ① 予防接種法に基づく定期接種の対象とし、3年間、**全国で原則無料**で定期接種を実施
- ② ワクチンの効率的な活用のため、まずは**抗体検査**を受けていただくこととし、補正予算等により、**全国で原則無料**で実施
- ③ **事業所健診の機会に抗体検査**を受けられるようにすることや、**夜間・休日の抗体検査・予防接種の実施**に向け、**体制を整備**



【出典】国立感染症研究所「年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況」2013-2017年をもとに算出（10歳以下のみ2017年のデータで計算）

## 風しん追加的対策の実施方法について

【対象】 昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性

- 【目標】 ①2020年7月までに、対象世代の男性の抗体保有率を85%に引き上げる  
 ②2021年度末までに、対象世代の男性の抗体保有率を90%に引き上げる

【実施方法】

- 対象者に対しては、市町村から受診券を送付し、抗体検査の受検を積極的に案内する。
- 受診券の送付については、今後3年間の抗体検査の受検目標を効率的に達成するため、**3か年計画で、段階的に行う**。  
※ 事業開始当初に受検希望者が集中した場合、短期的な供給不足が生じ、医療機関や対象者に混乱が生じる懸念がある。
- **1年目（～2020年3月）は、まずは昭和47年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた（約646万人）男性に対して受診券を送付する。**
- 2020年3月までにこの世代の男性に抗体検査・定期接種を受けていただき、4月以降更に対策を進めることにより、2020年7月までに抗体保有率85%の目標を目指す。
- なお、1年目に市町村から受診券を送付しない昭和37年4月2日から昭和47年4月1日の間に生まれた男性についても、市町村に希望すれば、受診券を発行し抗体検査を受検できることとする。

【初年度（2019年度）における取組】

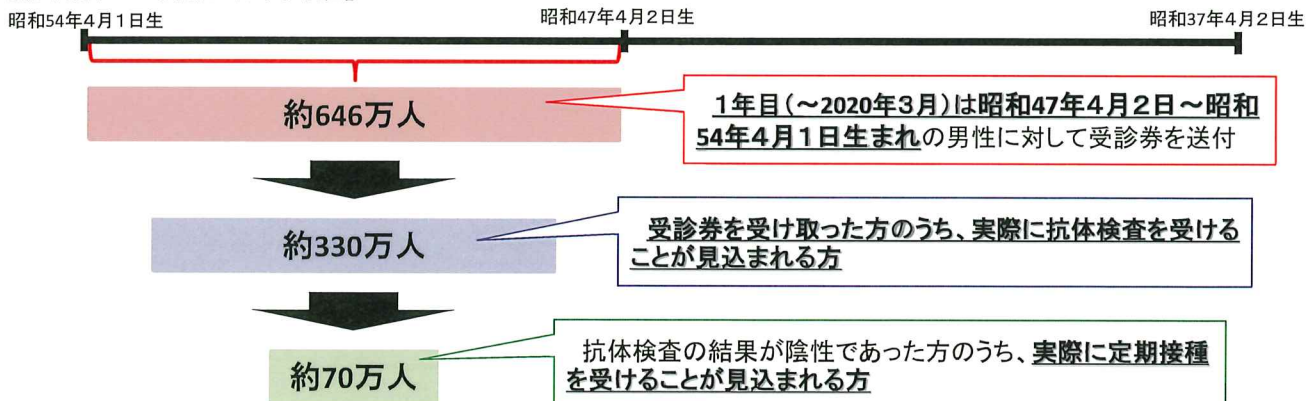




図 13 各都道府県別のクーポン券使用による抗体検査実施者数 (厚生労働省健康局結核感染症課調査)

図 14 各都道府県別のクーポン券使用による抗体検査実施者割合 (厚生労働省健康局結核感染症課調査)

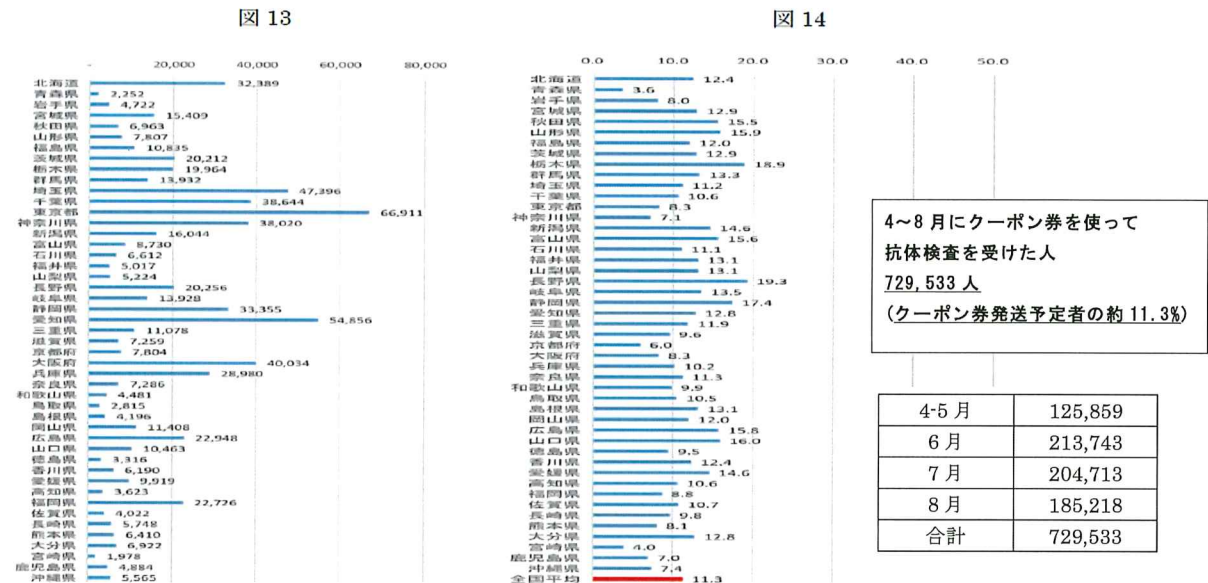


図 15 各都道府県別のクーポン券使用による予防接種実施者数 (厚生労働省健康局結核感染症課調査)

